

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2023.8.7-13

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。



19:11 神はパウロの手によって、驚くべき力あるわざを行われた。

19:12 彼が身に着けていた手ぬぐいや前掛けを、持って行って病人たちに当てると、病気が去り、悪霊も出て行くほどであった。

19:13 ところが、ユダヤ人の巡回祈禱師のうちの何人かが、悪霊につかれている人たちに向かって、試しに主イエスの名を唱え、「パウロの宣べ伝えているイエスによって、おまえたちに命じる」と言ってみた。

19:14 このようなことをしていたのは、ユダヤ人の祭司長スケワという人の七人の息子たちであった。

19:15 すると、悪霊が彼らに答えた。「イエスのことは知っているし、パウロのこともよく知っている。しかし、おまえたちは何者だ。」

19:16 そして、悪霊につかれていた人が彼らに飛びかかり、皆を押さえつけ、打ち負かしたので、彼らは裸にされ、傷を負ってその家から逃げ出した。

19:17 このことが、エペソに住むユダヤ人とギリシア人のすべてに知れ渡ったので、みな恐れを抱き、主イエスの名をあがめるようになった。

19:18 そして、信仰に入った人たちが大勢やって来て、自分たちのしていた行為を告白し、明らかにした。

19:19 また魔術を行っていた者たちが多数、その書物を持って来て、皆の前で焼き捨てた。その値段を合計すると、銀貨五万枚になった。

19:20 こうして、主のことばは力強く広まり、勢いを得ていった。

19:21 これらのことがあった後、パウロは御霊に示され、マケドニアとアカイアを通してエルサレムに行くことにした。そして、「私はそこに行ってから、ローマも見なければならぬ」と言った。

19:22 そこで、自分に仕えている者たちのうちの二人、テモテとエラストをマケドニアに遣わし、自分自身はなおしばらくアジアにとどまっていた。

神様が働かれるのには様々な形があります。ここではパウロの持ち物を通して主はみわざを行っておられます。手を置けば癒される場合もありますし、遠くで祈っている人に働かれる場合、また皆で一致して祈っている場合にもみわざがおきます。

これらはすべて「主のみわざだ」と分かるためであろうと考えられます。特定の人や方法によってのみ働かれるなら、その人や方法が神のようになってしまいます。ですから私たちはあらゆる形で祈り、主に求める必要があります。主だけがあげられるためです。

信じてもないのに形やことばだけを真似て、悪霊追い出しをしようとした祈禱師は、主のみわざをいただけなかったので、悪霊の餌食となってしまいました。主ご自身を信じ、主を主人として従い、そして祈り求めましょう。

それによって教会は前進したのです。その本質は「主のことばは…広まり」ということです。人を集めることも大切ですが、主のことばを広めることがもっと大切です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



19:23 そのころ、この道のことで、大変な騒ぎが起こった。

19:24 デメテリオという名の銀細工人がいて、銀でアルテミス神殿の模型を造り、職人たちにかなりの収入を得させていたが、

19:25 その職人たちや同業の者たちを集めて、こう言ったのである。「皆さん。ご承知のとおり、私たちが繁盛しているのはこの仕事のおかげです。

19:26 ところが、見聞きしているように、あのパウロが、手で造った物は神ではないと言って、エペソだけでなく、アジアのほぼ全域にわたって、大勢の人々を説き伏せ、迷わせてしまいました。

19:27 これでは、私たちの仕事の評判が悪くなる恐れがあるばかりか、偉大な女神アルテミスの神殿も軽んじられ、全アジア、全世界が拜むこの女神のご威光さえも失われそうです。」

19:28 これを聞くと彼らは激しく怒り、「偉大なかな、エペソ人のアルテミス」と叫び始めた。

19:29 そして町中が大混乱に陥り、人々はパウロの同行者である、マケドニア人ガイオとアリスタルコを捕らえ、一団となって劇場になだれ込んだ。

19:30 パウロはその集まった会衆の中に入って行こうとしたが、弟子たちがそうさせなかった。

19:31 パウロの友人でアジア州の高官であった人々も、パウロに使いを送り、劇場に入って行かないようにと懇願した。

19:32 人々は、それぞれ違ったことを叫んで

いた。実際、集会は混乱状態で、大多数の人たちは、何のために集まったのかさえ知らなかった。

19:33 群衆のうちのある者たちは、ユダヤ人たちが前に押し出したアレクサンドロに話すよう促した。そこで、彼は手振りで静かにさせてから、集まった会衆に弁明しようとした。

19:34 しかし、彼がユダヤ人だと分かると、みな一斉に声をあげ、「偉大なかな、エペソ人のアルテミス」と二時間ほど叫び続けた。

19:35 そこで、町の書記官が群衆を静めて言った。「エペソの皆さん。エペソの町が、偉大な女神アルテミスと、天から下ったご神体との守護者であることを知らない人が、だれかいるのでしょうか。

19:36 これらのことは否定できないことから、皆さんは静かにして、決して無謀なことをしてはなりません。

19:37 皆さんは、この人たちをここに連れて来ましたが、彼らは神殿を汚した者でも、私たちの女神を冒した者でもありません。

19:38 ですから、もしデメテリオと仲間の職人たちが、だれかに対して苦情があるなら、裁判も開かれるし地方総督たちもいることですから、互いに訴え出たらよいのです。

19:39 もし、あなたがたがこれ以上何かを要求するのなら、正式な集会で解決してもらうこととなります。

19:40 今日の事件については、正当な理由がないのですから、騒乱罪に問われる恐れがあります。その点に関しては、私たちはこの騒動を弁護できません。」こう言って、その集まりを解散させた。

19:41 【本節欠如】

福音は永遠の命を与えるものです。信じる者にはおろかのように感じてでも、信じる者には命そのものなのです。ですからこの福音を聞いた人々の間に違った反応が生まれ、それが大きな違いを生み出し、時には不一致をも生じるといえることはあり得るのです。イエス様もご自身、平和よりも火を投げ込むために来たと言っておられます。

当然教会でもみことばに従う人と、従わない人がいる場合は不一致が生まれるのですが、そのとき従わない人の気持ちを配慮してみことばをおろそかにするのは神をおろそかにすることであって、愚かなことです。

パウロたちは神のみことばを宣教し、みこころを第一とし、騒動になってもそえを曲げなかったのです。神様は町の書記役を通してパウロを守ってくださいました。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



9日 水曜

使徒

20:1 騒ぎが収まると、パウロは弟子たちを呼び集めて励まし、別れを告げ、マケドニアに向けて出発した。

20:2 そして、その地方を通り、多くのことをもって弟子たちを励まし、ギリシアに来て、

20:3 そこで三か月を過ごした。そして、シリアに向けて船出しようとしていたときに、パウロに対するユダヤ人の陰謀があったため、彼はマケドニアを通過して帰ることにした。

20:4 彼に同行していたのは、ピロの子であるベレア人ソパテロ、テサロニケ人のアリスタルコとセクンド、デルベ人のガイオ、テモテ、アジア人のティキコとトロフィモであった。

20:5 この人たちは先に行き、トロアスで私たちを待っていた。

20:6 私たちは、種なしパンの祭りの後にピリピから船出した。五日のうちに、トロアスにいる彼らのところに行き、そこで七日間滞在した。

20:7 週の初めの日に、私たちはパンを裂くために集まった。パウロは翌日に出発することになっていたのに、人々と語り合い、夜中まで語り続けた。

20:8 私たちが集まっていた屋上の間には、ともしびがたくさんついていた。

20:9 ユテコという名の一人の青年が、窓のところに腰掛けていたが、パウロの話が長く続くので、ひどく眠気がさし、とうとう眠り込んで三階から下に落ちてしまった。抱き起こしてみると、もう死んでいた。

20:10 しかし、パウロは降りて行って彼の上に身をかがめ、抱きかかえて、「心配することはない。まだいのちがあります」と言った。



20:11 そして、また上がって行ってパンを裂いて食べ、明け方まで長く語り合っ、それから出発した。

20:12 人々は生き返った青年を連れて帰り、ひとかたならず慰められた。

パウロはマケドニアとギリシャに向かい、3ヶ月滞在しましたが、そこでコリント教会を指導したと考えられます。陰謀などから計画変更を余儀なくされましたが、その中でも主の導きをいただいて、交わりと聖餐による礼拝（パンを裂き）をし、語り合いによって教え励まし続けました。主のみこころを行うためには計画の変更は問題ではありません。いつでもどこでもクリスチャンは主のみわざを行うのです。

ユテコの出来事から色々な示唆を受けることができます。パウロでも話が長くなることがあったようで、メッセージ中の居眠りは当時からあったようです。なんとなくホッとします。若い人は危険を顧みない傾向があるので、ユテコも窓際などに座ったのでしょうか。注意が必要です。

以上は副次的なことです。ルカが伝えたかった中心は何でしょうか。それは命を与え、慰めを与えるパウロの姿を象徴させたかったのではないのでしょうか。福音を伝える者は、死をも「慰め」に変える喜びを伝えているのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



10日 木曜

使徒

20:13 私たちは先に船に乗り込んで、アソスに向けて船出した。そこからパウロを船に乗せることになっていた。パウロ自身は陸路をとるつもりでいて、そのように決めていたのである。

20:14 こうしてパウロはアソスで私たちと落ち合い、私たちは彼を船に乗せてミティレネに行った。

20:15 翌日そこから船出して、キオスの沖に達し、その次の日にサモスに立ち寄り、さらにその翌日にはミレトスに着いた。

20:16 パウロは、アジアで時間を取られないようにと、エペソには寄らずに航海を続けることに決めていた。彼は、できれば五旬節の日にはエルサレムに着いていたいと、急いでいたのである。

20:17 パウロはミレトスからエペソに使いを送って、教会の長老たちを呼び寄せた。

20:18 彼らが集まって来たとき、パウロはこう語った。「あなたがたは、私がアジアに足を踏み入れた最初の日から、いつもどのようになんかあなたがたと過ごしてきたか、よくご存じです。

20:19 私は、ユダヤ人の陰謀によってこの身に降りかかる数々の試練の中で、謙遜の限りを尽くし、涙とともに主に仕えてきました。

20:20 益になることは、公衆の前でも家々でも、余すところなくあなたがたに伝え、また教えてきました。

20:21 ユダヤ人にもギリシア人にも、神に対する悔い改めと、私たちの主イエスに対する信仰を証してきたのです。

20:22 ご覧なさい。私は今、御霊に縛られて



エルサレムに行きます。そこで私にどんなことが起こるのか、分かりません。

20:23 ただ、聖霊がどの町でも私に証して言われるのは、鎖と苦しみが私を待っているということです。

20:24 けれども、私が自分の走るべき道のりを走り尽くし、主イエスから受けた、神の恵みの福音を証しする任務を全うできるなら、自分のいのちは少しも惜しいとは思いません。

現代人は時間に追われて忙しいと言われますが、2000年前のパウロも同じくタイトなスケジュールで動いていたようです。ビジョンによって生きる人は、スケジュールを逆算しながら限りある地上の時間を有効に使う人が多いのでしょうか。忙しさの中で主とともに歩むことも、またクリスチャンのライフスタイルであり、生きがいと成りうることです。

ですから長老たちを呼んだのもパウロの勝手な都合ではなく、主の働きのためです。そこでパウロは指導者たちにメッセージを語ります。これは大人数の集会ではありませんが、このように歴史に残る大切な内容であり、後の教会に大きな力となったものです。小さな集まりが非常に大切であるということが分かります。特に教会のリーダーたち、影響力のある人たちに対しては重要です。

パウロは自分の宣教の姿勢と証しを語りますが、これは長老たちリーダーに宣教の模範を教えたかったのでしょうか。このようにときには自分自身の努力や忍耐や苦闘を知らしめることも必要です。それは人々に理解を与えるため、主の働きのためです。

またこれから起こることへの覚悟を語ります。自分のミニストリーを知ってもらい祈ってもらうため、また同じ思いで献身してもらいたいということもあったでしょう。主から与えられた思いならそれを共有してもらうことも、クリスチャンの

働きの一部です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



11日 金曜

使徒



20:25 今、私には分かっています。御国を宣べ伝えてあなたがたの間を巡回した私の顔を、あなたがたはだれも二度と見る事が無いでしょう。

20:26 ですから、今日この日、あなたがたに宣言します。私は、だれの血に対しても責任がありません。

20:27 私は神のご計画のすべてを、余すところなくあなたがたに知らせたからです。

20:28 あなたがたは自分自身と群れの全体に気を配りなさい。神がご自分の血をもって買収された神の教会を牧させるために、聖霊はあなたがたを群れの監督にお立てになったのです。

20:29 私は知っています。私が去った後、狂暴な狼があなたがたの中に入り込んで来て、容赦なく群れを荒らし回ります。

20:30 また、あなたがた自身の中からも、いろいろな曲がったことを語って、弟子たちを自分のほうに引き込もうとする者たちが起こってくるでしょう。

20:31 ですから、私が三年の間、夜も昼も、涙とともにあなたがた一人ひとりを訓戒し続けてきたことを思い起こして、目を覚ましていなさい。

20:32 今私は、あなたがたを神とその恵みのみことばにゆだねます。みことばは、あなたがたを成長させ、聖なるものとされたすべての人々とともに、あなたがたに御国を受け継がせることができるのです。

20:33 私は、人の金銀や衣服を貪ったことはありません。

20:34 あなたがた自身が知っているとおり、

私の両手は、自分の必要のためにも、ともにいる人たちのためにも働いてきました。

20:35 このように労苦して、弱い者を助けなければならないこと、また、主イエスご自身が『受けるよりも与えるほうが幸いである』と言われたみことばを、覚えておくべきだということ、私はあらゆることを通してあなたがたに示してきたのです。」

20:36 こう言ってから、パウロは皆とともに、ひざまずいて祈った。

20:37 皆は声をあげて泣き、パウロの首を抱いて何度も口づけした。

20:38 「もう二度と私の顔を見る事が無いでしょう」と言った彼のことばに、特に心を痛めたのである。それから、彼らはパウロを船まで見送った。

「神のご計画の全体を、余すところなくあなたがたに知らせておいた」というパウロは、エペソの教会を長老たちにゆだねるだけです。またゆだねるしかできないとも言えます。

クリスチャンは誰でも必ず自分以外の人を思いやり、信仰の成長を促し、そのために助けるものです。ですからパウロが長老たちに語ったことは、2000年後の私たちもそのまま受けとめるべきものです。

パウロは自分自身に気を配りなさいと勧めます。霊性というものが大切で、主の思いや視点であるかが大切です。疲れや傷も思いに影響しますから、ケアすることが必要です。

また群れ全体に気を配るように言います。群れの全員と親しく交わるのは物理的に不可能でも、気を配ることはできます。自分の周囲の人のことには熱心でも全体のことを考えないなら、キリストの体から分離しているわけで、命が流れなくなってしまいます。

自分、または自分たちのことばかり考えている

と、そうなってしまいますから、「与える方が幸い」という真理が何よりも重要です。与えることで、自分が持っている幸いに気づきます。また与えることでさらに与えられます。そしてキリストのからだ全体が豊かになることで、自分自身または自分たち自身が豊かになれるのです。教会にとって一番必要なのは、この与えることの幸いを体験した人々の思いです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたその部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



12日 土曜

使徒

21:1 私たちは、彼らと別れて船出した。コスに直航し、翌日ロドスに着き、そこからパタラに渡った。
21:2 そこにはフェニキア行きの船があったので、それに乗って出発した。
21:3 やがてキプロスが見えてきたが、それを左にして通過し、シリアに向かって航海を続け、ツロに入港した。ここで船は積荷を降ろすことになっていた。
21:4 私たちは弟子たちを探して、そこに七日間滞在した。彼らは御霊に示されて、エルサレムには行かないようにとパウロに繰り返し言った。
21:5 滞在期間が終わると、私たちはそこを出て、また旅を続けた。彼らはみな、妻や子どもたちと一緒に町の外まで私たちを送りに来た。そして海岸でひざまずいて祈ってから、
21:6 互いに別れを告げた。私たちは船に乗り込み、彼らは自分の家に帰って行った。
21:7 私たちはツロからの航海を終えて、プトレマイスに着いた。その兄弟たちにあいさつをして、彼らのところに一日滞在した。
21:8 翌日そこを出発して、カイサリアに着くと、あの七人の一人である伝道者ピリポの家に行き、そこに滞在した。
21:9 この人には、預言をする未婚の娘が四人いた。
21:10 かなりの期間そこに滞在していると、アガボという名の預言者がユダヤから下って来た。
21:11 彼は私たちのところに来て、パウロの帯を取り、自分の両手と両足を縛って言った。「聖霊がこう言われます。『この帯の持ち主



を、ユダヤ人たちはエルサレムでこのように縛り、異邦人の手に渡すことになる。』」

21:12 これを聞いて、私たちも土地の人たちもパウロに、エルサレムには上って行かないようにと懇願した。

21:13 すると、パウロは答えた。「あなたがたは、泣いたり私の心をくじいたりして、いったい何をしていますのですか。私は主イエスの名のためなら、エルサレムで縛られるだけでなく、死ぬことも覚悟しています。」

21:14 彼が聞き入れようとしないので、私たちは「主のみこころがなりますように」と言って、口をつぐんだ。

エルサレムはかつてクリスチャンたちが迫害された地であるばかりでなく、パウロにとっては、ユダヤ教徒が自分を裏切り者として命を狙うところでした。しかしまたそこにはクリスチャンの指導者たちがいて、彼らにも異邦人の救いの様子を伝えなくてはならないと、パウロは考えたようです。または異邦人と律法の間隔などを教会として整理する必要も感じていたでしょう。

アガボを含めて多くの仲間がエルサレム行きに反対しましたが、パウロの決心は変わりませんでした。「死ぬことさえも覚悟しています」とパウロは言っています。

よく”命は何よりも大切”と言われ、その通りなのですが、肉体の命よりも大切なものがあります。それは永遠の命です。病などで死期の迫る人々も、イエスにある永遠の命をいただくときに、「なんと幸いなことか」「この病によって永遠の命をいただいた」と喜びを持ち、病さえも感謝するのです。

パウロが命をかけても惜しくないと思えた、この永遠の命をいただいていることを、もっと感謝

しましょう。そしてそれにふさわしい優先順位で、人生を歩みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





21:15 数日後、私たちは旅支度をしてエルサレムに上って行った。

21:16 カイサリアの弟子たちも何人か私たちに同行して、古くからの弟子である、キプロス人ムナソンのところに案内してくれた。私たちはそこに泊まることになっていたのである。

21:17 私たちがエルサレムに着くと、兄弟たちは喜んで迎えてくれた。

21:18 翌日、パウロは私たちを連れて、ヤコブを訪問した。そこには長老たちがみな集まっていた。

21:19 彼らにあいさつしてから、パウロは自分の奉仕を通して神が異邦人の間でなさったことを、一つ一つ説明した。

21:20 彼らはこれを聞いて神をほめたため、パウロに言った。「兄弟よ。ご覧のとおり、ユダヤ人の中で信仰に入っている人が何万となくいますが、みな律法に熱心な人たちです。21:21 ところが、彼らがあなたについて聞かされているのは、あなたが、異邦人の中にいるすべてのユダヤ人に、子どもに割礼を施すな、慣習にしたがって歩むなどと言って、モーセに背くように教えている、ということなのです。

21:22 それで、どうしましょうか。あなたが来たことは、必ず彼らの耳に入るでしょう。

21:23 ですから、私たちの言うとおりにしてください。私たちの中に、誓願を立てている者が四人います。

21:24 この人たちを連れて行って、一緒に身を清め、彼らが頭を剃る費用を出してあげてください。そうすれば、あなたについて聞か

されていることは根も葉もないことで、あなたも律法を守って正しく歩んでいることが、皆に分かるでしょう。

21:25 信仰に入った異邦人に関しては、偶像に供えたものと、血と、絞め殺したものと、淫らな行いを避けるべきであると決定し、すでに書き送りました。」

21:26 そこで、パウロはその人たちを連れて行き、翌日、彼らとともに身を清めて宮に入った。そして、いつ、清めの期間が終わって、一人ひとりのためにささげ物をすることができるかを告げた。

律法ではなくイエス様の十字架の身代わりによって救われるというすばらしい恵がわかり、異邦人が次々と信仰に入りました。このように主のみわさが進む中で、人間の弱さや罪から生じる問題も発生しました。

その1つは誤解です。パウロたちは「律法を守ることが救いの条件ではない」という理解でしたが、それを曲解して「律法を守ってはいけない」と言っているかのように取られてしまったのです。パウロの知らないところで言われていたので、どうすることもできません。

誰かのことを語るときに、周囲が曲解しないように気をつけなければなりません。ヤコブたち中心的なクリスチャンはそのような曲解に振り回されたなかったことは幸いでした。

もう1つはうわさです。「モーセにそむく教えをしている」というのは、パウロのいないところで彼に確認もせず、まことしやかに話されていたことであって、それはうわさでありました。ヤコブたちが警戒していたところを見ると、そのうわさに影響されたクリスチャンも少なからずいたようです。

本人のいないところで、「彼はああ言った、これをした」ということで、賛同を求めないように

しましょう。中心的クリスチャンは惑わされませんでした。

ヤコブたちが警戒したように、曲解とうわさは、キリストの体に害を与えます。しかしパウロたちは相手と論争する道を選びませんでした。あくまでも誠実な行動を示し、誤解を解いたのです。そこに主の解決があります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

